

協会だより

第32号

平成28年2月1日発行

福岡県立学校事務職員協会

会長の年頭挨拶

「結(ゆい)」

新年を迎え、会員の皆様におかれましては新たな決意を持たれたことと思います。

浜田前会長から引継を受け、皆様の御支援を賜り8ヶ月が経過しました。各地区、各委員会においては活発な研修研究活動が行われており感謝申し上げます。昨年を表す漢字は「安」でしたが、学校では生徒の安心・安全な環境作りを考え業務に取り組まれていることと思います。今年、平成26年度入学生から始まった就学支援金・奨学給付金制度は、いよいよ3学年実施となります。また、平成27年10月5日に「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」が施行されました。いわゆるマイナンバー制度に伴い、関係事務はより慎重な取扱いとなります。そういったこともあり、今年を目標を「結(ゆい)」と考えました。結う、結ぶ、結合、共同を意味し相互扶助を言います。また、こつこつと糸を紡ぐ意味もあります。今こそ一層事務室が一致団結して業務にあたらなければならないと思います。

さて、昨年11月20日(金)に行われました全国協会理事会の報告をいたします。

1 全国大会について

第68回佐賀大会はうちわ等を利用した参加型の大会であり、webアンケートの実施に好意的な意見が多かった。第69回徳島大会は平成28年8月3日～5日に開催される。しかしながら、富山県開催の全国事務長会と重なるとの事である。

2 「チーム学校」のヒアリングについて

中央教育審議会で「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会」が発表したなかで、学校事務職員を専門スタッフとして位置づけ総務・財務等の専門性を生かし、学校経営面からその役割を果たす事が期待されている。次について申し述べられた。

- ①教員の業務を見直しによる事務職員への業務過多への懸念
- ②学校司書を専門職として配置
- ③事務職員配置は生徒数・学級数で配置ではなく、必要人数での配置を希望
- ④学校事務の専門性を考慮すれば、学校事務で採用を要望

平成27年度の九州大会において「待ったなし世代交代ーハンドブック作成に向けて」と題して、北九州地区事務研究委員会が発表されました。タイトルからも後継者育成が重要課題であることがわかる時期を捉えた発表で、若手職員の飛躍を大いに期待します。各地区においては、平成20年度筑後地区から始まった新規採用職員研修(初任者研修)がより充実した内容になって実施されています。新規採用職員から3年目職員や臨時職員を含む地区もあり、中堅職員が講師となったり、外部講師を招いたり新しい取組がなされています。中堅職員の育成や縦の繋がり、横の繋がりへと拡がりをみせています。

ある日、「学校運営、頼れる事務職員」という新聞記事が目にとまりました。いわゆる「チーム学校」だと感じました。義務制に関する記事でしたが、学校の業務改善のキーパーソンとして存在感を高め、職員のスキルを高め仕事の範囲を広げているということです。学校事務職員がクローズアップされており、責任と誇りをもって取り組みたいものです。

今年は「申年」です。日光東照宮の三猿が浮かびます。見方を変えて、いいものをたくさん観て(現場に

駆けつけ自分の目で確認して)、心で聴いて(直接、状況や意見を聞いて)、素晴らしい繋がり(調査して必要な手立てを取り改善すること)にしましょう。

今後とも積極的な御支援と御協力をお願いいたします。

(会長 満生 順子)

各地区活動報告

●北九州地区(会長 木村 稔彦)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度の事業は、「実務研修会」・「地区別研修会」・「パソコン研修会」・「新規採用事務職員等研修会」を実施しています。さらに、活動の充実を図るため、今年度も北九州地区県立学校事務次長・主査会共催による「次世代を担う若者育成塾」を実施しました。これら協会の活動に際しましては、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【主な研修会の概要】

「実務研修会」は、教職員課から「給与事務について」、財務課から「旅費事務について」講師を迎え、研修を行いました。定期監査の結果について、実際の事例を挙げ、間違った箇所や理由をひとつずつ検証し、規則や通知を確認しながら、詳しく説明をしていただきました。日常業務を遂行する上で大変参考になる実務的な内容で、有意義な研修会となりました。

県教育委員会との共催による「地区別研修会」では、前半は、「学校運営に対する事務室の関わり方」ー校長の望む事務室ーとの講題で、講師の北九州地区公立高等学校長協会会長 固谷 寛 氏(県立小倉高等学校長)をお招きし、講話をしていただきました。後半は、主事から事務長まで、階層を問わず6つの班を構成し、3つのテーマ(若年事務職員への業務継承、不祥事防止の意識向上、学校窓口としての事務室の在り方)から、あらかじめ割り振られたテーマ1つについて班別に討議を行いました。その後、各班の発表者が討議内容を発表し、世代を超えた交流と学校間の連携及び事務職員としての資質向上を図ることができました。

「パソコン研修会」は、1月に県庁 OA ルームを会場に実施しました。日常業務に役立つように、紙文書を画像に加工したファイルへのワードでの入力、ワードでの画像加工、エクセル関数及びパワーポイントについて勉強しました。インストラクターによる丁寧で分かりやすい指導で、充実した研修を実施することができました。

今年度も行った「新規採用事務職員等研修会」では1回目は、理事5名による実務に関する講義及び新採職員間の親睦を図るために情報交換会を実施しました。2回目は、事務長講話「仕事と健康」、先輩職員から「就学支援金を含めた、1年目から覚えてほしい事務」について講義があり、その後新採職員が一人ずつ「5ヶ月仕事をして思うこと」というテーマで講義をしました。3回目は、事務長からの講義で「予算について」、その後新採職員が一年間の体験を通してそれぞれの立場で感じたことをテーマに情報交換をしました。その後、「次世代を担う若者育成塾」を実施し、インソースから講師を招き、事務職員としての基本であるオペレーションミス防止について、アクティブラーニングで学びました。



【各研究委員会の活動状況】

「事務研究委員会」では、今年度6月に九州大会(鹿児島)で、「待ったなし世代交代ーハンドブックの作

成について」をテーマに発表しました。おかげさまで無事発表を終え、感謝しております。今後は、今回発表したハンドブックの精査を行い、活用できるよう研究をすすめていきたいと思っております。

「パソコン研究委員会」ではエクセル、ワード、パワーポイントについて研修会を実施しました。日常業務で役立つ実践的な内容を目指しています。来年度も会員の皆様の要望を取り入れ、誰もが参加できる研修を行うことを第一に考え活動していきます。今まで参加されたことのない方及び参加された方にも満足できる研修会を企画していきますので奮ってご参加ください。

●福岡地区（会長 東 健二）

福岡地区では、研修主任を新設する等により充実した組織とし、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検等の取組を実施しました。また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

【3ブロック別研修会】（福岡地区事務長会事業部と共催）

定期監査等の指導事項等の状況を踏まえ、事務処理内容の相互点検を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

①日時 平成27年9月10日（木）西ブロック

場所 修猷館高校 20名参加 内容 支出（11・13～18節）

②日時 平成27年9月11日（金）東・南ブロック

場所 福岡魁誠高校（東） 22名参加 筑紫丘高校（南） 19名参加

内容 支出（11・13～18節）

実施4年目であり、お互いに顔見知りとなり活発な点検、意見交換がなされました。

【監査対策点検】

同一地区内で点検者を選考して派遣依頼を行い、9月～12月に定期監査現地校（16校）に出向き点検を実施しました。

【初任者研修会】

採用1～3年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む26名が参加して実務研修等を実施してした。

〈第1回〉平成27年7月29日（水） 博多青松高校 13：00～

- ①参事講話 ②先輩職員（事務主査）講話 ③研修計画 ④3年目職員体験発表
- ⑤グループ討議「日常業務の問題点」

〈第2回〉平成27年10月27日（火） 博多青松高校 13：00～

- ①講演「就学期からの一貫した相談・支援体制について」義務教育課指導主事
- ②グループ討議「学校事務職員の立ち位置について考える」
- ③採用2年目職員による研究発表（3名）

〈第3日〉平成28年1月22日（金） 博多青松高校 13：00～

- ①実務研究発表（2年目職員による発表2名）
- ②実践発表「うちの学校PR」（1年目職員による発表13名）
- ③実務自主研修・年間のまとめ（研修主任） ④平成28年度の研究発表について（研修主任）
- ⑤講評（事務長会）

【事務研究委員会】

平成24年度から「施設管理と災害対応について」をテーマに研究を行い、事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」作成を中心に昨年度に九州（大分）大会で発表し一応の区切りはつけることができました。現在は危機管理マニュアルの更なる作成の研究を行うか、新たなテーマで研究を行うかどうか模索しているところです。

【パソコン研修会】

Microsoft Office の有効活用を図るためのエクセル2007等の研修を行います。また、パソコンに関するお役に立つ情報を送付します。

【地区別研修会】

平成27年8月28日（金） 福岡リーセントホテル 13:00～17:00 参加者48名

1 講話（13:30～14:30）

「マイナンバー制度について」

講師 福岡県企画・地域振興部情報政策課
番号制度推進班 江島 浩一氏

（内容）

講師は数年前、内閣官房に出向していた経験があるとのことで、十数年前から導入が検討されていたこと、「消えた年金記録」が問題となった8年程前から再度導入の機運が高まり、社会保障の分野にも活用することを組み込んで法律の成立に至ったことなど、制度の成り立ちについて冒頭で解説がありました。

国会の審議が遅れていた関係で、研修当日には通知カードの発送開始日や各種様式等未確定な点多くありましたが、具体的なスケジュール等、資料を示しながら丁寧に説明くださいました。

県職員が業務でマイナンバーを利用する場面は、(1)番号法別表第一に列挙される事務を処理するために利用する場合(2)講演料等の報酬等の支払に伴い税務署へ提出する支払調書を作成するために利用する場合の大きく2ケースが想定され、県としては行政の立場だけではなく、事業者の立場でもマイナンバー制度に関わることになるとのことです。なお、当制度の高等学校等就学支援金に関する事務への適用開始については、現在のところ文部科学省がシステム作成等の準備中であるため、来年度以降になるのではとの情報が寄せられました。

当制度において事業主に求められる安全管理措置の件を心配する声もあるが、現在各所属で取り扱っている個人情報もかなり厳重な管理を行っているはずであり、特別な対応を取らなければならないとむやみに危惧する必要はない、とのお言葉が印象的でした。

制度の導入目前であったため、アンケートでは時期を得た研修であったとおおむね好評でした。

2 講話（14:40～15:10）

「時間外勤務縮減について」

講師 福岡県教育庁総務部総務課人事・文書班 大野 恭平氏

（内容）

時間外勤務の縮減に向けて、県による通知の説明や考え方についてご講話いただきました。

1点目としては時間外勤務について、「時間外勤務の適正な管理について（通知）」に記載されている時間外勤務の基本的考え方や時間外勤務を行うことができる業務等について各所属で再度確認を行い、時間外勤務の運用を適正に行うように指示がありました。

2点目としてはワークライフバランスの推進に係る本年の県の取組について、県の発出している



通知について概要の説明がありました。本年度より実施されている福岡県教育委員会特定事業主行動計画(第3期)において年次休暇取得日数15日以上という数値目標が掲げられたことや、本年度導入された夏期朝型勤務について等の説明がありました。

最後に、仕事と生活の調和を計るよう職場全体が意識を持ち、時間外勤務縮減につなげてほしい。また、引き続いての班別討議で各学校の現状と対策について充実した討議が行われることを期待するとの言葉をいただきました。

3 班別討議(15:25~16:15)

「時間外勤務縮減に向けて」

(内容)

時間外勤務の縮減に向けた課題と対策について、6班に分かれてグループ討議を行いました。まず、各学校の現状と課題(問題点)およびその対策(解決策)を各自が付箋紙に記入し、発表しながら模造紙に貼り付けました。その後、班内で討議をしながらその中から3項目程度を選び、討議結果を模造紙にまとめて発表を行いました。



- ・ 他校の現状を知るとともに、参事から主事まで幅広い職の意見を交換することができ有意義な討議となりました。

●筑後地区(会長 大場 昇子)

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、実務研修の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で、支部単位で監査現地校事前点検会議を実施しました。さらに、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

【実務研修会】

平成27年7月17日(金) 福岡県教育庁南筑後教育事務所

- 1 講義 「給与事務について」
講 師 福岡県教育庁教育企画部教職員課給与総務係 主任主事 大津 将実 氏
- 2 講義 「旅費事務について」
講 師 福岡県教育庁総務部財務課予算係 主任主事 野元 省吾 氏

【地区別研修会】

平成27年9月11日(金) 福岡県青少年科学館

- 1 研究発表
発表者 筑後地区パソコン研究委員会委員長
小郡特別支援学校 参事補佐兼事務次長 長野 浩臣
内 容 「EUC機能」「ピボットテーブル集計」について
- 2 課題討議(問題提起・班別討議) テーマ「事務室の課題」
発表者 大川樟風高等学校 主事 大森 啓之
司会者 大牟田北高等学校 参事補佐兼事務次長 木下 剛
八女農業高等学校 事務次長 富松 千恵
輝翔館中等教育学校 事務次長 竹隈 義明
助言者 朝倉東高等学校 参事兼事務長 圓城寺 紀子

【新規採用事務職員等研修会】

- 第1回 平成27年7月13日(月) 福岡県立柳河特別支援学校
 内容 参事講話、文書、給与、接遇(マナー講座)、研究講義(先輩に聞きたいこと)
- 第2回 平成27年9月25日(金) 福岡県立ありあけ新世高等学校
 内容 給与(初任給決定)、旅費、支出、収入
- 第3回 平成28年1月14日(木) 福岡県立久留米高等学校
 内容 定時制事務(給食・補助金)、人事・服務、福利厚生、財産管理、体験発表
 参事・事務長から「後輩職員」へ託す言葉

年度当初は、例年通り新規採用職員9名を対象に新採研を行う予定でしたが、本地区の参事・事務長と若手職員を対象にアンケート調査を行った結果、学校事務職員としての実務研修を中心に新採職員に限らず他の若手職員も参加できるような研修会を計画しました。第1回午前の参事講話と事務長による文書事務についての講義、給食体験を新採職員のための研修とし、それ以降は、若手職員や主事補を含めた研修を行いました。接遇の講座以外は、事務主査以上の中堅職員が各人の知識と工夫で講師を務めてくれました。第3回では、新採職員を体験発表と参事・事務長による講話をもって終了しました。

【事務研究委員会】

今年度から新メンバーとなりました。7名の研究委員で現在、研究テーマを模索中です。年度内には、テーマを決定し、研究を行う予定です。

【パソコン研究委員会】

「集計を楽に」「お役立ちソフトの供給」をメインテーマに活動しています。そして、「メルマガ」を配信しています。

「集計を楽に」では、行コミ、財務会計、財産システムの「EUC機能」を使って取り出したデータを「ピボットテーブル集計(エクセル標準機能)」で活用する方法を地区別研修会で3年間発表しましたので、ほぼ全員に紹介したことになります。

●筑豊地区(会長 高瀬 吉次)

筑豊地区は16校の学校で構成されており、学校教育活動の発展・充実に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。

今年度は新規採用職員2人、義務制からの異動者1人を迎えて、活発に新規採用職員等研修会が実施されました。

【新規採用職員等研修会】

- (1) 第1回 平成27年8月26日(水) 田川市石炭・歴史資料館で開催

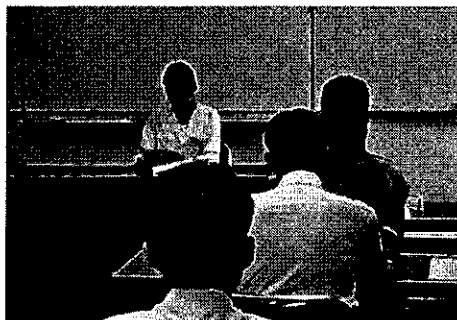
①先輩事務職員講話

直方高等学校 主事 西山 真美
 田川科学技術高等学校 事務長 阿部 稔

②新規採用職員等スピーチ 12人

③田川市石炭・歴史資料館施設見学

研修は、前日の台風15号による影響が残る中行われましたが、そのような状況下でも無事予定していた研修を終えることができました。



(2) 第2回 平成27年10月15日(木) たがわ情報センターで開催

①パソコン研修会

講師 (株)クリエイティブジャパン 野本 圭子氏
ワード全般

初歩的なワードの入力方法から、差し込み印刷やさらには高度な使用方法まで広範囲に渡り学びました。

②意見交換会

日頃疑問に感じていること等を結論を出すことが目的ではなく、5人～6人のグループ2班で意見の交換を行い、今後に向けての参考としました。

(3) 第3回 平成28年1月22日(金) イイツカコミュニティセンターで開催

①実務研修 「共済組合事務について」

講師 公立学校共済組合福岡支部給付係 高原 和也氏

②職場の健康づくり 「色を味方にして楽しく生きよう」

講師 カラーセラピスト 重本 史子氏

【会計事務相互点検】

今年度の監査実施校に赴き監査期間内の諸帳簿の点検・確認を行いました。

- ・田川地区 平成27年10月20日(火) 田川高等学校
平成27年10月26日(月) 川崎特別支援学校
- ・嘉飯地区 平成27年9月8日(火) 嘉穂高等学校、嘉穂高等学校附属中学区
平成27年10月29日(木) 嘉穂東高等学校
- ・直鞍地区 平成27年10月20日(火)、21日(水) 直方特別支援学校
- ・就学奨励費関係 平成27年11月17日(火) 直方特別支援学校

【会計実務研修会】

平成27年7月15日(水) 福岡県立嘉穂高等学校

①講義 「人件費について」

講師 教職員課給与総務係 主任主事 宮崎 亮氏

②講義 「旅費事務について」

講師 財務課予算係 主任主事 野元 省吾氏

【地区別研修会】

平成27年9月18日(金) パドドゥ・ル・コトブキ

(1) 講演 「教育現場で勤務する行政職員の人権感覚を育む」

講師 福岡県教育センター 教育経営部人権教育班 主任指導主事 小正路 淑泰氏
4班に分かれてのアクティビティを取り入れた講義であり、理解しやすい講演でした。

(2) 研究協議 「これからの事務職員に求められること」

発表者

福岡県立田川高等学校 主事 増田 初実
福岡県立西田川高等学校 主任主事 宮島 友明
福岡県立筑豊高等学校 事務主査 古川 理子
司会 福岡県立嘉穂東高等学校 事務主査 本田 慎悟
助言者 福岡県立鞍手高等学校 事務長 松尾 重治

これからの事務職員に求められることについて、「情報の発



信・共有」、「コミュニケーション能力」、「前向きな姿勢」等様々な角度からの基調発表があり、その後の全体討議でも活発な意見交換が行われました。

各研究部報告

●事務改善委員会 (委員長 植木 幸隆)

1 平成 27 年度の活動

近年は、新規採用職員意識アンケート調査、事務引継ぎマニュアル転動したらどうする—というテーマで、調査、研究を行いましたので、前年度から事務改善委員会は、次のような活動を継続して行いました。

本委員会の方向性として求められている調査、研究、文書のうち、文書で進めることに決めました。その内容は、『業務に関連する通知文書の収集、PDF 化及び保管を行い、会員向けのデジタルアーカイブズ (古文書館) を構築し、同時に保管する』というものです。

しかしながら、収集分野、範囲、作業方法などで業務量が多大になると考えられましたので、前年度は、最初の取り掛かりとして、資料収集 (監査関係、各地区研修会)、また、文書の活用という観点から、業務委託契約である自家用電気工作物、消防設備にかかる「標準となる契約書 (案)」の作成をしました。

今年度は、通知文書の収集について、県立学校事務提要に根拠通知として本文右欄外に掲載している県通知文書の一覧表を各編ごとに作成し、データ (紙、電子) の有無を把握して電子データ化の範囲を検討しました。

標準となる契約書 (案)、資料収集 (監査関係、研修会) については、検討及び整理を継続しました。

事務改善委員会は、会員の皆様に役立つ活動を目指していますので、是非本委員会へのご意見ご要望等を各地区の委員へお寄せください。

また、今後とも当委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2 活動状況

(1) 第 1 回 平成 27 年 11 月 11 日 (水) 都久志会館

今年度活動の検討、今後の取り組み

ア 通知文書の収集分野、範囲…県立学校事務提要との連携

イ 資料収集 (監査関係、研修会) の状況

ウ 標準となる契約書 (案) の原案

(2) 第 2 回 平成 28 年 2 月上旬 (予定) 福岡リーセントホテル

通知文書一覧表の検討

標準となる契約書 (案) の修正、検討及び資料収集の整理

(3) 第 3 回 平成 28 年 3 月上旬 (予定) 福岡リーセントホテル

通知文書電子データ化作業方法の検討

標準となる契約書 (案) の原案確定、収集資料提供方法の検討

●事務提要委員会 (委員長 平尾 昌彦)

事務提要委員会では、今年度から提要 4 編の追録原稿作成に加えて、就学支援金等マニュアルについても更新を行うようになりました。

6 月 5 日、第 1 回県委員会を福岡リーセントホテルで行い、提要 4 編の地区別担当箇所、及び就学支援金等マニュアル追録の方針を決め、活動を始めました。

「提要 4 編」については、7 月・8 月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。

作業は各地区順調に進み、8月20日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り、集約・点検作業を行いました。今年も頻繁に改正がある庶務編等に手こずりながらも、何とか無事に作業を終えることができました。

11月16日、福岡視覚特別支援学校にて追録財務課提出原稿を作成し、12月1日、財務課予算係へ追録原稿のチェックを依頼しました。

今年度も財務課をはじめ、教育庁各課のご協力を得て点検作業いただいているところであります。

点検後、追録原稿を再チェックし、業者に追録原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。なお、発行は活動計画のとおり28年4月を予定しております。

「就学支援金等マニュアル」については、7月16日、福岡視覚特別支援学校にて初版作成時の引継を受け、平成27年度版作成の方向性を決定しました。

9月18日、福岡視覚特別支援学校にて進捗状況を確認し、27年12月中の終了を目指し作業を行っております。

「事務提要ライブラリー版」については、28年1月～3月にかけて全メンバーで修正に着手し、28年5月中には更新出来るよう頑張っていきます。

「文書分類表」の更新については、3月に「D：学事」の部分を、5月に「A～C：共通」及び「D：学事」の完全版をライブラリーに登載配布しています。来年度版の作業も同様の日程になると思われます。

分類表の更新作業につきましては、新年度当初の文書事務のための2段構えであること、また、システム上、自力入力であることは致し方のないことと多少の遅れはご理解いただいて、今後ともご協力をお願いいたします。

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。(スマートページ> G教育庁のフォルダにあります。)皆様、大いにご活用ください。

さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●情報委員会 (委員長 松尾 重治)

1 平成27年度の活動

今年度は、各地区での活動を中心に取り組みました。なかなか思うように取組を進めることが出来なかったかも知れませんが、課題や反省点を今後の活動に活かしていきたいと考えています。

また、本協会のホームページは我々の活動を広く発信し、新たな交流の場となるように設けられたものですが、その目的に応えられるような更新等が出来ていない状況です。会員の皆様には今まで以上に関心を寄せていただき、積極的な活用をお願いしたいところです。

2 活動状況

(1) 委員会の開催

ア 第1回 平成27年6月17日(水) 福岡リーセントホテル

- ・経過報告
- ・平成27年度取組

イ 第2回 平成27年12月15日(火) よしみ工産株式会社

- ・会社見学

- ・今年度の取組（経過報告及び情報交換）
- ウ 第3回 平成28年1月26日（火）福岡リーセントホテル
 - ・今年度の取組
 - ・県立学校事務職員協会「ホームページ」
- (2) 地区活動の紹介
 - ・筑後地区パソコン研究委員会の活動
 - 「パソ研メルマガNo.20」平成27年12月配信

各研究大会等

- ◎福岡県立学校事務職員協会研究発表会並びに総会
 開催日 平成27年5月25日（月）
 会場 福岡リーセントホテル

今年度は2件の研究発表が行われました。

- (1) 九州大会発表（6月に鹿児島市で開催）
 テーマ 『待ったなし世代交代～ハンドブックの作成に向けて～』
 発表者 主事 古野 正洋（中間高校）
 主事 亀川 扇里（折尾高校）

- (2) 筑後地区事務研究委員会
 テーマ 『「新・教職員手帳」について』
 発表者 参事補佐兼事務次長 松本 孝博（ありあけ新世高校）

満生会長から、研究発表へのねぎらいと感謝の言葉がありました。その後、各研究部会と地区事務研究委員会の活動報告が行われました。

総会においては、4名の来賓をお迎えし福岡県教育庁友野理事からご祝辞を頂きました。また、今年度も新規採用者の紹介が満生会長から行われました。議案については、提案どおり議決されました。

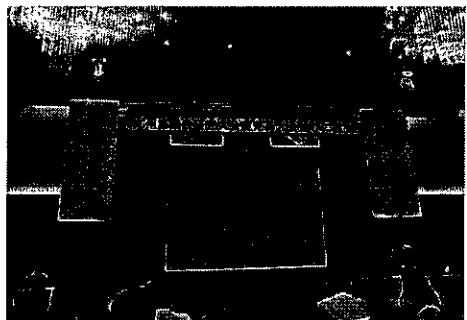
昨年度の九州大会における「施設管理と災害対策について～事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」の作成に向けて～」について発表された福岡地区5名の方、及び前会長を含む旧役員の方に感謝状をお渡ししました。お疲れ様でした。

平成28年度は平成28年5月30日（月）開催予定です。



- ◎第63回九州協議会研究大会並びに総会
 開催日 平成27年6月11日（木）～12日（金）
 会場 ホテルウェルビューかごしま

今年度の九州大会は鹿児島市で開催されました。九州各県から333名（うち本県から71名）の参加がありました。残念ながら2日間とも雨となりました。足下の悪い中参加された皆様お疲れ様でした。



研究発表は、折尾高等学校の亀川主事と中間高等学校の古野主事が「待ったなし世代交代～ハンドブックの作成について～」という研究テーマで発表されました。様々な観点から現状を分析し、初心者や初めて行う仕事もスムーズにできるようなハンドブックの必要性や新人育成についての発表でした。詳しい内容は大会冊子をご覧ください。

また鹿児島県南大隅町出身の薩摩大使をされてある女優 愛華みれ 氏の「チャンスは自分の中に・・・」と題した特別講演も興味深く、印象に残る大会となりました。

功労者表彰は本県からは8名の方が表彰を受けました。博多青松高等学校 浜田 富士満 前会長が代表として挨拶をされました。表彰された皆様おめでとうございます。

総会においては、全ての議案が提案どおり議決されました。

来年度は熊本県(平成28年6月9日(木)～6月10日(金))で開催されます。

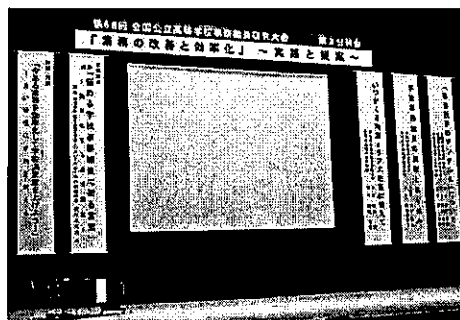
◎第68回全国公立高等学校事務職員研究大会、総会

開催日 平成27年7月23日(木)～24日(金)

会場 佐賀市文化会館

今年度の全国大会は佐賀県で開催されました。全国から793名の参加があり、うち本県から68名が参加しました。

文部科学省講話では、「新しい時代の教育」と題した講話があり、これから進もうとする学校教育について文部科学省の考え方が示され大変参考になりました。記念講演では、株式会社日本総合研究所主席研究員 藻谷 浩介 氏の『国家百年の計は「地方」にあり～人口減少と学校統廃合～』と題した講演でした。様々なデータを元に会場全体を巻き込みながら話をされました。



研究発表は本県からの発表はありませんでしたが、第1～第3分科会で計8本の研究発表がありました。各分科会の基調講演・班別討議とも会場も参加する形での討議があり、素晴らしい大会でした。

功労者表彰では、本県からは8名の方が表彰されました。博多青松高等学校 浜田富士満 前会長が代表として挨拶をされました。表彰された皆様おめでとうございます。

総会においては全ての議案が提案どおり議決されました。

来年度は徳島県(平成28年8月4日(木)～5日(金))で開催されます。



中堅事務職員研修会報告

開催日 平成27年11月20日(金)

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

田川科学技術高等学校 参事補佐兼事務次長 難波 義広(開会式、講演)

1 開会式 全国公立高等学校事務職員協会 秋田 剛氏 挨拶

「全国から65名の事務職員が参加されている。この研修会の目的は、上司・指導者と部下・後

輩の間の指導の在り方を考え、健全で自然な職場環境をつくるために求められる指導、育成のスキルを習得する。組織マネジメントを学び、事務職員の資質の向上を図り、全国から集まった他県の事務職員と交流をすることによって、見識を深めてください。」

2 講演 テーマ 「育てる作法」～打たれ弱い新人、叱れない上司～

講師 株式会社マネジメントサポート 吉野 有紀氏

- (1) 人材育成の4本の柱:OJT(仕事上)、off-JT(職場を離れて)、自己啓発(仕事外のスキルを学ぶ)、ジョブローテーション(転職、異動、配置換え)
- (2) OJTとは、(どういう状況で)仕事をしながら職務遂行、仕事内容を通じて、(どこで)主に職場で、(だれが)上司・先輩が、(いつ)執務時間内に、(どのように)意図的、計画的、継続的に部下・後輩を指導、育成していくことである。
 - ①日常業務OJTとは、部下・後輩が標準に達するまで、毎日仕事の中で、繰り返し指導、支援する。(期待するレベルまで)
 - ②課題型OJTとは、長期及び中期展望に立って課題を与え、部下・後輩の目標達成能力と問題解決能力の向上を図る。
- (3) 3つのビジネススキル(テクニカルスキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアルスキル)

導入期:ティーチング、答えを教える。

成熟期:コーチング、答えを引き出す。委任期:＋αを見届ける。(褒める、叱るを繰り返す)
- (4) 2種類のコミュニケーション①仕事志向コミュニケーション②情緒的コミュニケーション(人間関係構築コミュニケーション)、両者をバランスよく使い分ける。

青豊高等学校 事務主査 磯邊 敬子(グループ研修)

午前の講義に引き続き、午後からのグループ研修では、1班およそ6名毎、各テーブルに分かれ「育てる作法 10の法則」と題したもののからテーマを順に挙げ、そのテーマについて、今現在各々の職場で部下や後輩の育成について心がけていること、苦労していること等を皆で話し合いました。私たちのK班には、福岡県の他に宮城、千葉、三重、岡山、沖縄県の職員の方々が集まり、お互いに部下・後輩になりきり、上司・先輩から様々なセリフを、言われてみてどう感じるのかを体験したりしました。普段はなかなか言いにくい褒め言葉も、少し言われるだけで嬉しく感じることや、抽象的な指示や矢継ぎ早の指示には、どうしていいかわからないまま、とりあえずの返事だけをしてしまいがちになる心理にも改めて気づきました。討議中「自分も完璧ではないのに、部下・後輩を叱りにくい」という悩みが発表されたところ、吉野講師は「自分は棚に上げて、まずは叱らなければいけない、ただ叱り方というものがある。」と回答されました。つい叱ることに躊躇してしまいがちですが、上司・先輩からの叱責や注意が、部下・後輩の課題克服のエネルギーとなる為にはどうすればいいのかということ、具体的に学ぶことができました。

また、K班の中には事務長もいらっしゃり、普段事務長として部下育成のために心がけていることと、私たち一般職員が後輩育成のために心がけていることとは異なっていることを、討議を通じて実感しました。直接的に後輩指導に携わる職員よりも、事務長は間接的ですが、もっと包括的な視野で要所のみを押さえるというような指導をされていると感じました。つまり私たちには、立場に応じた部下・後輩の指導方法が求められるのだということ認識しました。部下・後輩の指導は、指導を受け入れてもらえない時もある等、簡単ではありませんが、しっかり仕事を覚えてもらえれば自分たちも助かりますし、講義では「部下・後輩が育たない組織に発展はない」ということでした。この言葉を胸に、今後も後輩の指導に当たっていこうと思います。

古賀特別支援学校 事務次長 稲田 諭(グループ研修)

午前の講演に引き続き、(株)マネジメントサポート 吉野 有紀氏を講師として、「育てる作法」についてのグループ研修(事例演習、ロールプレイング、ディスカッション)が行われました。8つのサブテーマ

ごとに、まず課題に対して個人で考察したりディスカッションしたりして考えを引き出し、その後ポイント、ヒントやコツについて講師からの説明がある、というスタイルでした。

【上司が職場のムードメーカーとなるべし】「職場のムードは上司が意図的に作り上げるもの」【部下は褒めて育てるべし】「自信を与え、「更に期待に応えなくては」と危機感を持たせる効果」「仕事をちゃんと見てくれている」安心感【叱る・注意も指導と考えるべし】「問題点の克服に資する、必要な行為。」【部下への課題は具体的な行動課題とすべし】「抽象的な指示で行動を変えることができる人間は組織のうち2割しかいない」【部下への質問は配慮すべし】「沈黙してしまうのは下手な質問の責任。質問は意識して工夫が必要。質問力を磨く。」【部下へは定期的なガイダンスをすべし】定期的なヒアリングの勧め。【マネジメントやリーダーシップを発揮するには自己研鑽すべし】「自分の経験以外の知識や情報を意識して取り込む」【部下はサイレントクレーマーと心得るべし】「上司・先輩の指導に対し、批判を口にする部下・後輩はまずいない。常に自らを顧みる。」

サブテーマの中には、参加者は概ね中堅階層なので「そういう立場じゃないよね」的なものもありましたが、若手職員が「育つ」という長いスパンの目的のために、日常の職場でどのような行動を取るべきか、どのようなコミュニケーションを図るべきか、意識して工夫することの大切さを学ぶことができました。「褒める」「叱る」ロールプレイングを大変難しく感じたということは、自分がいかに日頃そうした行動をしていないかの現れであると思います。結構細かなノウハウが詰め込まれていましたので、研修内容を再び自分に落とし込むことで将来に資することができると思います。有意義な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

浮羽究真館高等学校 参事補佐兼事務次長 坂本 孝浩(文部科学省講話)

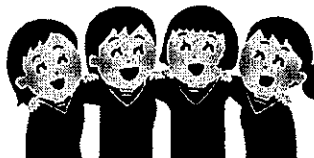
文部科学省講話では、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課専門官 山本 剛 氏より「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策」についてご講話をいただきました。

「チーム学校」とは、教員と事務職員の役割分担を見直し、専門スタッフや地域の人たちの力を借りて、学校をいわばひとつのチームとして活性化しようという構想です。

こうした考え方が出てきたのは、生徒指導上の複雑化・多様化する課題に対し、学校や教員だけが課題を抱えて対応するのでは、十分に解決できないからです。それでは、具体的にはどうするのかというと、3つの柱が考えられています。まず専門性に基づくチーム体制の構築。これは、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをこれまで以上に増やし、臨床心理士や社会福祉士など資格を持った人達やICT支援員、部活動指導員などを学校に配置するとともに、地域との連携を推進する教職員を地域連携担当教員とするなど、教員のみが生徒指導に関わる現在の体制を転換しようというものです。次にそのような専門スタッフをひとつのチームとしてまとめるため、管理職の適材確保・主幹教諭制度の充実・事務体制の強化により、これまで以上に学校のマネジメントを確立し、学校の組織力・教育力を向上すること。そして、教職員の人材育成や業務改善等の取組を推進し、教員一人一人が力を発揮できる環境を整備することが必要であるとしています。

チーム学校構想では、事務職員も当然欠かせない戦力としており、そのため事務職員を増員し、また職務規程を見直し、事務職員が学校運営に関わる職員であることについて法令上、明確化することを検討するとしています。

今回の研修は、われわれ事務職員にはチーム学校の一員として、資質の向上が不可欠であり、学校全体を見渡し問題を発見し解決する思考力が求められているのだと、改めて考える機会となりました。



「^し至^{そく}足^{ゆう}優^{ゆう}游」

「戦後70年を迎えた日本の社会と古希(70歳)を迎えた私の今日この頃」

原 嘉納(前福岡県立学校退職事務長会事務局長)
(元福岡県立小倉工業高等学校参事兼事務長)
平成18年3月31日退職

福岡県立小倉工業高等学校を最後に福岡県職員として38年間勤務して、退職致しました。22歳から60歳までの長い道のり、思えば遠くへ来たもんだと思います。平成25年度の調査では、女性の平均寿命が86.61歳、男性の平均寿命が80.21歳を超え、日本は超高齢社会に突入し、人口の4人に1人が高齢者となっています。私自身は、男性の平均寿命まであと10年あります。今のところ、健康寿命を全うしていますが、健康のありがたさに感謝しつつ、「老人クラブ活動」のボランティアを行っています。60歳以上の高齢者で組織される「八幡西区老人クラブ連合会」の事務局長として、約10,000人の会員の皆さんのお世話をしています。この組織は、上部団体として北九州市老人クラブ連合会、そして全国老人クラブ連合会に加入する大きな組織であります。〈老人福祉法〉に基づいて、高齢者の健康と福祉を増進するという国の責務を背景に活動を展開しています。

平成26年6月「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備に関する法律(=医療介護総合確保推進法)」が成立しました。この法律は、持続可能な社会保障制度の確立のため、効率的高い医療提供体制と地域包括ケアシステムの構築を目指すものであります。これにより、〈介護保険制度〉が見直され、平成27年度から3年間で、これまで全国一律であった要支援者に対する訪問介護や通所介護が、保険の給付対象から市町村が行う新たな地域支援事業に移行されることになりました。我々、全国老人クラブ連合会や北九州市老人クラブ連合会は、高齢者の抱える多くの課題に取り組み、国や行政に対して交渉を行い、高齢者にとって住みやすいまちづくりを目指して頑張っています

さて、話しを現役当時のことを思い起こしながら、振り返ってみたいと思います。事務職員協会との関わりは、そんなに私自身強くはないのですが、一時期、「事務提要委員会」の追録部会の一員としてかかわらせていただきました。県立学校事務職員が、法律や条例、規則に基づいて業務を遂行するための参考書ともいうべきものでした。県立学校でありますから、当然県民の税金や国の補助金を受けて予算を運営しながら事務長・事務職員が業務を行っています。従って、業務を遂行する上で、法律や条例、規則に精通しなければなりません。そのために、事務職員協会による研修や研究活動が認められ、また、公務員として職務を適正に行う義務もあると思います。県立学校事務長会においても、「学校改革検討委員会」の中で、学校教育法・施行規則、財務規則・施行規則や管理規則、地方自治法やその他県立学校にかかる多くの法令を研究し、そして、新たな改正や改革を行ってきました。

最後になりましたが、高等学校事務職員は、教育行政・教育財政等の専門家(=スペシャリスト)として、研鑽を重ね、県民や生徒の期待に応え、自らの職務に誇りをもって邁進していただきたいと思います。